

令和3年度森林環境税活用事業の予算案

大区分	小区分	No.	継続 新規 拡充	事業名	担当課	R2予算額 (千円)	R3予算額 (千円)	本年度 との比較	事業内容	新規事業及び増減の主な理由	
森林環境 の保全を 進める 事業	森林の 整備	1	継続	公益林保全整備事業	木材増産 推進課	23,000	23,000	→	荒廃森林の発生を予防し森林の公益的機能を効果的に発揮させるため、水源かん養機能等の公益的機能が 高い人工林(11～60年生)の保育間伐を支援		
		2	継続	みどりの環境整備支 援事業	木材増産 推進課	20,000	29,106	↗	荒廃森林の発生を予防し森林の公益的機能を効果的に 発揮させるため、CO2吸収効果が高い人工林(11～ 45年生)の保育間伐を支援	事業要望量の増及び補助単価の見直し	
		3	継続	造林事業	木材増産 推進課	40,400	25,750	↘	森林所有者の自助努力では適切な森林整備が期待で きない森林において、森林所有者に代わって森林組合 等が実施する人工林(11～60年生)の保育間伐を支援	事業要望量の減	
		4	拡充	森林・山村多面的機 能発揮対策支援事業	林業環境 政策課	10,464	10,464	→	適正な森林管理を促進するため、地域住民等が協力し て実施する里山林の保全管理や森林資源を利用する 取り組みを支援	来年度から、関係人口の創出・維持等の活動を支援するメニューが創設されること から、減少傾向にある活用団体数に一定の歯止めを期待	
		小計						93,864 (38.3%)	88,320 (33.7%)		
	シカ被害 対策	5-1	継続	指定管理鳥獣捕獲等 事業委託料	鳥獣対策課	5,995	6,017	→	高標高域の国有林内鳥獣保護区でわな猟によるシカ 捕獲を実施	人件費単価の増加に伴う事業費の増加。	
		5-2	継続	シカ個体数調査委託 料	鳥獣対策課	15,715	2,142	↘	科学的根拠に基づく計画的で順応的なシカの管理を行 うため、最新のシカの個体数を推定	令和3年度は、令和2年度に実施した糞粒法及び糞塊法調査のデータや、令和2 年度までの捕獲実績等をもとに、県内全域のニホンジカの個体数の推計のみを行 うため、現地での調査のための経費を必要としないことが大きな減額理由となっ ている。	
		5-3	新規	森林保全シカ捕獲事 業委託料	鳥獣対策課	—	21,000	↑	狩猟によるシカの捕獲実績が上位である市町村におい てシカによる森林及び自然植生被害を軽減するため、 狩猟期のシカ捕獲に対して捕獲報償金を支出する。	「四万十市、四万十町、大豊町、香美市、安芸市」の5市町と委託契約を締結し、シ カの狩猟期(11月15日～3月31日)のうち、2月末までに捕獲されたシカの捕獲報償 金の支払実績に基づき委託費を支払う。5市町は、H27～R元年度狩猟期のシカの 捕獲頭数が全県のおよそ50%を占めており、隣県からのシカの流入が顕著である ため、シカによる天然林及び自然植生被害やスギ・ヒノキ人工林等の林業被害が 多くみられる。このことから、シカによる自然植生被害等により低下した森林の持つ 公益的機能(水源のかん養、土砂の流出防備等)の早期回復を図り、また、林業被 害を防止するため、高知県森林環境税を活用し、これら5市町においてシカの個体 数調整を推進する。	
		6	拡充	希少野生植物食害対 策事業	環境共生課	15,411	16,986	↗	ニホンジカによる希少野生植物の食害被害を防止する ため、現況調査や防護ネットを設置に必要な取組を支 援	カシノナガキクイムシ食害による希少野生植物の被害状況に関する調査や対策の 追加。 石鎚山系保護指針策定事業の最終年度であることに伴う普及資料作成、シンポジ ウムの実施。	
		小計						37,121 (15.1%)	46,145 (17.6%)		
	大区分 計						130,985 (53.4%)	134,465 (51.4%)			

県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業	森林環境教育	7	拡充	環境学習推進事業	生涯学習課	4,840	6,382	↗	親子の自然体験活動等の機会の提供や小中学校の宿泊体験活動を支援する。またH30年度までに育成した体験活動指導者を本事業及び各種団体が行う活動へ講師派遣を行う。 ※新規事業として森林活用指導者育成事業を創設	自然体験型学習事業において、補助額の高い民間団体等への補助が増えたこと、新型コロナウイルス感染拡大防止対策で追加の補助を定めたための増。 また、人材難を理由として学校林を利活用する学校数が、学校林を保有する71校中18校にとどまっていることから、森林環境教育を推進することのできる人材育成研修を行い、学校林を含めた身近な森林等の教育的活用を促す。
		8	継続	高校生森林環境理解事業	高等学校課	1,087	1,219	→	高校生に対し森林環境学習を行い、森林環境の大切さを学び、保全していくことの重要性を理解してもらう取組みを支援	演習林活用事業における教材物品の購入に係る事務費の増加。
		9	継続	高校生後継者育成事業	高等学校課	735	880	→	林業関係の資格取得を推進することにより、将来の森林整備の担い手の確保を図る。	高校生後継者育成事業における生徒送迎バス借りに係る事務費の増加。
		10	拡充	山の学習支援事業	林業環境政策課	26,611	27,891	↗	本県の豊かな森林環境に子どもたちが気づき、体験活動を通じて森林整備の大切さを理解するための森林環境学習を実践する小中学校の取組を支援	R2に作成したハンドブックを活用し、事業の新規活用校の増加に向けた取組支援(コーディネート)を行うため増加。
		小計				33,273 (13.6%)	36,372 (13.9%)			
	県民の主体的活動の支援	11	継続	森林環境情報誌作成等委託料	林業環境政策課	7,404	7,321	→	幅広い県民を対象に、森林の果たす役割や森林保全の必要性などを広報	
		12	継続	森林環境学習フェア等開催委託料	林業環境政策課	9,165	12,641	↗	森林環境学習に関するフェアを開催し、広く県民に森林環境保全の重要性を理解し、木材利用や森林への関心を深めていただくための情報発信等を行う。	こうち山の日推進事業で実施していたバスツアーを当事業で実施するため増加。
		13	新規	森林環境税座談会等実施委託料	林業環境政策課	—	9,289	↑	現在の課税期間がR4年度に終了することに伴い、期間延長の検討に当たり県民から意見を聞くため、座談会等を開催	毎期、課税終了年度の前年に開催しており、森林環境税延長検討のための経費であることから森林環境税を活用して実施する。
		14	継続	こうち山の日県民参加委託料	林業環境政策課	5,431	2,065	↘	幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の支援や、ボランティア活動の募集等を行う公式HP「森・ヒト・こうち応援ネット」の保守管理等を行う。	当事業で実施していたバスツアーを森林環境学習フェア等開催委託事業で実施するため減少。
		15	継続	こうち山の日推進事業	林業環境政策課	7,857	7,882	→	「こうち山の日(11月11日)」を中心に、県民が主体となって行う森林整備活動等を支援	人件費単価の引上げに伴う事務費の増額。
		16	継続	木育指導員活動支援事業費補助金	林業環境政策課	2,094	4,182	↗	木育指導員の養成のための取組と活動を支援する。	指導員派遣の経費と養成の経費の上限額を区分し、1団体当たりの上限額を増加させることとしたため。
		17	継続	運営委員会等開催費	林業環境政策課	1,216	1,523	↗	森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催を行う。	森林環境税延長検討に伴う、委員会の開催回数の増加の可能性を考慮し、増加。
		18	継続	林業大学校(短期課程)研修業務等委託料	森づくり推進課	658	699	→	林業大学校において、林業活動を実践している方の知識や技術の向上を図る「短期課程」の研修を実施	講師単価の引き上げに伴う報償費の増加。
		小計				44,237 (18.0%)	45,602 (17.4%)			
	木材利用の促進	19	継続	木の香るまちづくり推進事業	9月補正により+15,000 木材産業振興課	36,690 (15.0%)	45,286 (17.3%)	↗	木材の利用が森林環境の保全に繋がることを理解してもらえるように、公共的施設の木質化等の取組を支援	R2年度は51,690千円(当初+9月補正)の予算に対し、10月末時点での交付決定・要望の状況は47,000千円であり、公共的空間における木質化、木製品導入の動きが高まっている。加えて、R3要望調査の状況もR2年度予算要望調査時の金額を上回っていることをふまえた予算の増額。
	大区分計				114,200 (46.6%)	127,260 (48.6%)				
	合計				245,185	261,725				

※小計、合計欄の下段は構成比。

※本年度との比較は、事務費等を除いた事業費の実質的な増減の状況。